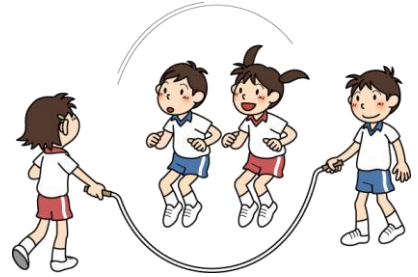


寺小だより

令和4年度 3月号 NO.12
富田林市立寺池台小学校
校長 阪上 佐智子
☎ 0721-29-1477

『なわとび がんばったよ』

寺小では、年間を通してなわとびに取り組む機会があります。1学期は、たてわり班活動で、『大なわ交流会』に向けて大なわ8の字跳びにチャレンジしました。最初のうちは、跳べなくてどうなることか心配した1年生も、上の学年の児童に教えてもらった「くぐりぬけ」をしたり、一緒に跳んでもらったりするうちに、どんどん上達していくのがすごいなと感心しました。跳んだ回数を競うことよりも、みんなが楽しく参加できることや、違う学年の人と交流することをねらいとしています。なわとびが上手になるにつれて、自然とたてわり班メンバーとの仲もよくなっていきます。



3学期に全校で取り組むなわとび週間は、子どもたちの体力づくりをねらいとしています。短なわは、どこでも、一人でも気軽に取り組める運動です。そして、なわを回しながら、タイミングを合わせてジャンプするという、2種類の動作を同時にすることで、運動能力が向上する効果もあります。

なわとび週間中は昼休みに4～6年生の児童が、1～3年生の児童を検定する『たてわり検定』と、体育委員会やボランティア児童・教員が検定する『なわとび検定』があります。そこでは高学年から低学年への温かい励ましやサポートの光景が広がっています。また難しい技に挑戦し、失敗しても何度も何度も検定にトライする姿や、寒い日でも休み時間ごとに一生懸命に練習する姿は、毎年恒例です。各学年の目標を達成した児童の名前カードが職員室前に掲示されている『名人への道』では、昇段した名前カードを先生に移動させてもらいます。その前で子どもたちは立ち止まり、自分や友だちの名前を見つけ、健闘をたたえ合う姿も微笑ましいです。今年度の取組みは終了しましたが、寒さに負けず、しっかりと運動を続けてほしいと思います。

◎^{しかく}四角の中は、^{なか}子どもたちも^こ ^よ読みましょう。



なわとびが ^{じょうず}上手になるように、がんばりましたか？

^{せんせい}先生たちよりも ^{じょうず}上手にとべる人が ^{ひと}たくさんいますね。

^{こうちようせんせい}校長先生も、^{しょうがくせい}小学生の時には ^{とき}いろいろな ^{かた}とび方が ^{いま}できました。今は・・・どうでしょう？